



トランスレーション パターンの設定

トランスレーション パターンを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- 「トランスレーション パターンの設定値」 (P.42-1)
- 「関連項目」 (P.42-11)

トランスレーション パターンの設定値

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、[コールルーティング (Call Routing)] > [トランスレーションパターン (Translation Pattern)] メニュー パスを使用して、トランスレーションパターンを設定します。

Cisco Unified Communications Manager はトランスレーション パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってはシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、Public Switched Telephone Network (PSTN; 公衆電話交換網) が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

トランスレーション パターンの設定のヒント

トランスレーション パターンを設定する前に、次の Cisco Unified Communications Manager 項目を設定してください。

- パーティション
- ルート フィルタ
- コーリング サーチ スペース
- リソースプライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメイン



(注)

選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するトランスレーションパターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターンおよびハントパイロット、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、またはミートミー番号の設定ウィンドウをチェックしてください。

トランスレーション パターンの削除のヒント

トランスレーションパターンを削除するときは、削除するトランスレーションパターンが正しいか慎重に確認してください。削除したトランスレーションパターンを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したトランスレーションパターンを作成し直す必要があります。

GUI の使用方法

Cisco Unified Communications Manager の管理の Graphical User Interface (GUI; グラフィカルユーザインターフェイス) を使用してレコードを検索、削除、設定、またはコピーする方法については、「Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションでの操作」(P.1-13) およびそのサブセクションを参照してください。GUI の使用方法とボタンおよびアイコンの機能の詳細が説明されています。

設定値表

表 42-1 では、「トランスレーションパターンの設定 (Translation Pattern Configuration)」ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。関連する手順については、「関連項目」(P.42-11) を参照してください。

表 42-1 トランスレーションパターンの設定値

フィールド	説明
[パターン定義 (Pattern Definition)]	
[トランスレーションパターン (Translation Pattern)]	<p>[トランスレーションパターン (Translation Pattern)] フィールドに、番号とワイルドカード (スペースを使用しない) を含む、トランスレーションパターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、D、および ¥+ を指定できます。¥+ は、国際的なエスケープ文字 + を表します。このフィールドをブランクのままにする場合は、[パーティション (Partition)] ドロップダウンリストボックスからパーティションを選択する必要があります。</p> <p>(注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するトランスレーションパターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合は、ルートパターンおよびハントパイロット、トランスレーションパターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、またはミーティング番号を確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合のもう 1 つの方法として、ルートプランレポートも確認してください。</p>
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを選択します。パーティションを割り当てない場合は、[<なし (None)>] を選択します。[<なし (None)>] を選択した場合は、[トランスレーションパターン (Translation Pattern)] フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」(P.40-4) の手順に従って、パーティション名を検索し、選択します。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p> <p>(注) トランスレーションパターン、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

表 42-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[説明 (Description)]	トランスレーション パターンの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、または山カッコ (<>) は使用できません。
[番号計画 (Numbering Plan)]	番号計画を選択します。 トランスレーション パターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、番号計画を選択できます。オプションで番号計画を選択すると、所定の番号パターンが制限されます。
[ルートフィルタ (Route Filter)]	オプションのルート フィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されません。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字 」、および「 ルートフィルタの設定値 (P.30-1) 」を参照してください。 表示されるルート フィルタは、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。 250 より多くのルート フィルタが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[ルートフィルタの検索と一覧表示 (Find and List Route Filters)] ウィンドウを表示します。ルート フィルタの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、ルート フィルタ名の一部を入力します。表示されたルート フィルタのリストで、指定したいルート フィルタの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。 (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。
[MLPP 優先度 (MLPP Precedence)]	ドロップダウン リスト ボックスで、このトランスレーション パターンに対する MLPP 優先度の設定を次の中から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [エグゼクティブオーバーライド (Executive Override)] : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 [フラッシュオーバーライド (Flash Override)] : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 [フラッシュ (Flash)] : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 [即時 (Immediate)] : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 [プライオリティ (Priority)] : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 [標準 (Routine)] : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 [デフォルト (Default)] : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 (注) 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「 Multilevel Precedence and Preemption 」の章の「 優先順位 」の項を参照してください。

表 42-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource-Priority Namespace Network Domain)]	ドロップダウン リスト ボックスから、設定済みのリソース プライオリティネームスペース ネットワーク ドメインを選択します。
[ルートクラス (Route Class)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このトランスレーション パターンに対するルート クラスの設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] • [ボイス (Voice)] • [データ (Data)] • [衛星回避 (Satellite Avoidance)] • [ホットラインボイス (Hotline voice)] • [ホットラインデータ (Hotline data)] <p>ルート クラスは、コールのトラフィック クラスを識別する DSN コードです。ルート クラスによって、ダウンストリーム デバイスに特殊なルーティング要件または終端要件が通知されます。デフォルトの設定では、着信コールの既存のルート クラスが使用されます。</p> <p>デフォルト以外のルート クラス設定を使用するのは、着信 T1 CAS ルート クラス番号を Cisco Unified Communications Manager ルート クラス値に変換 (および番号を除去) する場合だけにしてください。パターン設定を使用するそれ以外の着信コールにデフォルト以外のルート クラス設定を割り当てないでください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>必要に応じて、ドロップダウン リスト ボックスから、追加するトランスレーション パターン用のコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペース名を検索し、選択します (「コーリング サーチ スペースの設定値」(P.41-1) を参照)。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>

表 42-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)]	<p>Cisco Unified Communications Manager では、外部コール制御プロファイルをトランスレーション パターンに割り当てて、外部コール制御を有効にすることができます。トランスレーション パターンに外部コール制御プロファイルが割り当てられている場合、トランスレーション パターンに一致するコールが発生すると、Cisco Unified Communications Manager はすぐにコールルーティング クエリーを付加ルート サーバに送信し、付加ルート サーバは Cisco Unified Communications Manager にコールの処理方法を指示します。外部コール制御の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「外部コール制御」を参照してください。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから、トランスレーション パターンに割り当てた外部コール プロファイルを選択します。</p>
[ルートオプション (Route Option)]	<p>[ルートオプション (Route Option)] の指定内容が、このトランスレーション パターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など)、またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。[このパターンをルーティング (Route this pattern)] または [このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択してください。</p> <p>[このパターンをブロック (Block this pattern)] オプション ボタンを選択した場合、このトランスレーション パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [エラーなし (No Error)] • [未割り当ての番号 (Unallocated Number)] • [コールの拒否 (Call Rejected)] • [番号の変更 (Number Changed)] • [番号形式が無効 (Invalid Number Format)] • [優先レベルの超過 (Precedence Level Exceeded)]
[外部ダイヤルトーンの提供 (Provide Outside Dial Tone)]	<p>外部ダイヤルトーンは、Cisco Unified Communications Manager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ネットワーク外にあると思われる各トランスレーション パターンに対してこのチェックボックスをオンにします。</p>
[緊急優先 (Urgent Priority)]	<p>ダイヤル プランに重複したパターンが含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません (検索結果を基準にして数字列をダイヤルできる場合を含む)。Cisco Unified Communications Manager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。</p> <p>ヒント デフォルトでは、[緊急優先 (Urgent Priority)] チェックボックスはオンになっています。重複したパターン、または ! を持つ可変長パターンがダイヤル プランに含まれる場合を除き、チェックボックスはオフにしないことをお勧めします。</p>
[発呼側番号によるネクストホップのルート (Route Next Hop By Calling Party Number)]	<p>このボックスをオンにすると、発呼側番号に基づくルーティングを有効にすることができます。クラスタ間で発信者 ID 情報に基づくコールのスクリーニングを機能させるにはこのルーティングが必要になります。</p>

表 42-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション (Calling Party Transformations)]	
[発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]	発信コールで完全な外線電話番号を Calling Line Identification (CLID; 発呼者回線 ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[発呼側トランスフォーメーションマスク (Calling Party Transform Mask)]	トランスフォーメーションマスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド ([発呼側の外線電話番号マスクを使用 (Use Calling Party's External Phone Number Mask)]) がオフの場合、発呼側トランスフォーメーションは行われません。詳細については、「 ルート リストの設定値 (P.32-1) 」を参照してください。
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、および国際的なエスケープ文字 + です。 (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。
[発呼者回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者回線 ID の表示 (CLIP/CLIR) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。 このトランスレーションパターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。 発呼者回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。 このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「 発信側番号トランスフォーメーション設定値 」の項にある表 14-8 を参照してください。 (注) コール表示制限を設定するには、このパラメータおよび [接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)] パラメータを [プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] デバイスレベルパラメータと組み合わせて使用します。同時に、これらの設定値では、各コールに対して発呼者回線または接続先回線の表示情報を表示するか、制限するかを選択できます。[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators、内線コールのみ)] フィールドの詳細については、「 デバイス プロファイルの設定値 (P.72-1) 」、および「 スピードダイヤル ボタンまたは短縮ダイヤルの設定 (P.67-38) 」の表 67-1 を参照してください。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager 機能およびサービス ガイド』の「 Call Display Restrictions 機能 」の章を参照してください。

表 42-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発呼者名の表示 (Calling Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、発呼者名の表示 (CNIP/CNIRI) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このトランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。発呼者名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager で発呼者名の情報を表示させる場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が発呼者名の情報を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「発信側番号トランスフォーメーション設定値」の項にある表 14-8 を参照してください。</p>
[発呼側番号タイプ (Calling Party Number Type)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX (Private Branch Exchange; 構内交換機) への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤルプランが不明です。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 42-1 トランスレーションパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[発信側番号計画 (Calling Party Numbering Plan)]	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
[接続側トランスフォーメーション (Connected Party Transformations)]	
[接続先回線 ID の表示 (Connected Line ID Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先回線 ID の表示 (COLP/COLR) を使用します。これは、コールごとに着信側の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このトランスレーションパターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続先回線 ID の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 14-11 を参照してください。</p>

表 42-1 トランスレーション パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[接続先名の表示 (Connected Name Presentation)]	<p>Cisco Unified Communications Manager は補助的なサービスとして、接続先名の表示 (CONP/CONR) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このトランスレーション パターンに対して、Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を発信側の画面表示に表示するかどうかを選択します。接続先名の表示を変更しない場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。接続側の名前を表示する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。Cisco Unified Communications Manager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、[非許可 (Restricted)] を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項にある表 14-11 を参照してください。</p>
[着信側トランスフォーメーション (Called Party Transformations)]	
[番号の削除 (Discard Digits)]	<p>このトランスレーション パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「数字破棄命令」の項を参照してください。</p> <p>(注) 表示される数字破棄命令は、[番号計画 (Numbering Plan)] ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>
[着信側トランスフォーメーションマスク (Called Party Transform Mask)]	<p>トランスフォーメーション マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、トランスフォーメーションは行われません。ダイヤルされた番号が、ダイヤルされたとおりに送信されます。</p>
[プレフィックス番号 (Prefix Digits、発信コール)]	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、国際的なエスケープ文字 +、およびブランクです。</p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 42-1 トランスレーションパターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
[着信側番号タイプ (Called Party Number Type)]	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定する場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • [国内 (National)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [国際 (International)] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [加入者 (Subscriber)] : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
[着信側番号計画 (Called Party Numbering Plan)]	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco Unified Communications Manager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号内の番号計画を設定する場合に使用します。 • [ISDN] : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • [国内標準 (National Standard)] : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • [非通知 (Private)] : プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

追加情報

「関連項目」(P.42-11) を参照してください。

関連項目

- 「トランスレーション パターンの設定」 (P.42-1)
- 「トランスレーション パターンの設定値」 (P.42-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ルート プランの概要」
- 「リソース プライオリティ ネームスペース ネットワーク ドメインの設定値」 (P.18-1)
- 「リソース プライオリティ ネームスペース リストの設定値」 (P.19-1)

